

兵庫縣生物學會の誕生を祝う

東大教授 理學博士 本 田 正 次

ラジオの「話の泉」の時間にこんな、問題が出てみたことを記憶している。

それは青森から下關まで陸路の旅をする時、必ず通らねばならぬ縣はどこであるか。但し青森縣と山口縣を除くといふのである。これは狭い日本のことであれば少し考へれば容易に分る問題で、それは兵庫縣以外には何處にもある筈はない。すなはち北は直接日本海に面し南は淡路島を界して瀬戸内海の東部たる大阪灣及び播磨灘に臨み、更に淡路島の南は紀伊水道を経て直接太平洋に續き、表日本と裏日本とを両手に抱へ持つという日本で唯一の豪勢な縣である。従てその氣候も冬季降雪量の多い、所謂裏日本型と日本でも特に降雨量の少いといわれる瀬戸内海型と別れ、氣候に支配されることの多い植物分布にもまた注目すべき幾多の事例が本縣に存在することも言を俟たないところである。

そもそも如何なる事業でも、また如何なる研究でも興味をもつてかゝらねば永續きもしなければ、また成功もおぼつかない。植物の研究もまた同様で、採集をし調査をして名前を覺へ分布を知るといふ興味より始つて、如何なる植物學上の大研究も成就するものである。植物學上の基礎、産業、文化などの根柢がまづ植物の採集調査にあることも既に自明の理で、私達はこの意味に於て私達の持場所をますます堅く持し、文化國家をみざす新日本の建設に應分の寄與を今日から覺悟しなければならぬ。

幸に各位の結束により、ここに兵庫縣生物學會の誕生を見たのを私は心から祝福し、且つ冒頭に述べた兵庫縣の地理的特異性を十分に生かして縣下を余すところなく探査し、一木一草を忽にしない調査完了の報告を本會の名に於て發展されんことを期待するものである。

思うに國の文化の基をなすものは學問であり、學問を興すものは國民全体の分に應じた協力にある。各位はまづ足下を凝視し、郷土の植物の調査を完了して範を他府縣に垂れんことを心掛けられたい。私は今夏各位の一部の方々に親しく相接する機會を得たことを喜ぶの餘り、忌憚ない私の所感をのべて、いやが上なる各位の御健闘をお祈りする次第である。

(昭和二十二年九月二十八日)